

# SkyOnDemandオンラインセミナー

## ～第2回：基本編～

さわってみよう① 取引先データをSalesforceにファイル連携

2014年6月19日(木)

株式会社 **テラスカイ**

# 事前確認

00:00:34

配信中です

静音

レイアウト変更

メニュー

配布資料

遅延解消

受信映像OFF

受信音声OFF

ヘルプ

退室

音声や映像が遅延している場合は、こちらをクリックしてください。

社 在 東京 東京都中央区八重洲1-6-6 八重洲センタービル7階

事業所：大阪、名古屋

ご質問や音声途切れたなどございましたら、こちらよりコメントください。

「いいね！」テラスカイ最新情報

Find us on Facebook

チャット

まだ書き込みはありません

チャット機能制限中

送信

Best AppExchange Application Partner 受賞

Cloud Ranking 2013-2014

salesforce

amazon web services

Cloud

↑ EAI ×1)

DCSpider

DataSpider

※1)EAI: Enterprise Application Integration

Copyright © 2014 TerraSky Co., Ltd. All Rights Reserved.

12

## ～第2回：基本編～

### さわってみよう① ～取引先マスタをSalesforceへファイル連携～



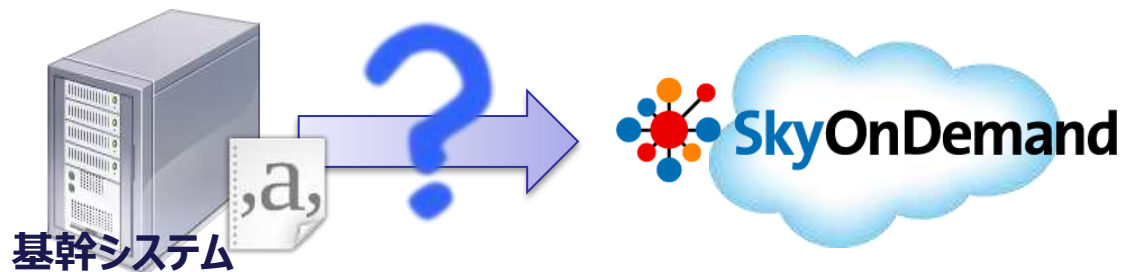
## 本日のゴール

- ファイル連携の実装方法の理解
- 加工処理の設定方法の理解
- ファイルトリガーの設定方法の理解

# ファイル連携の実装方法

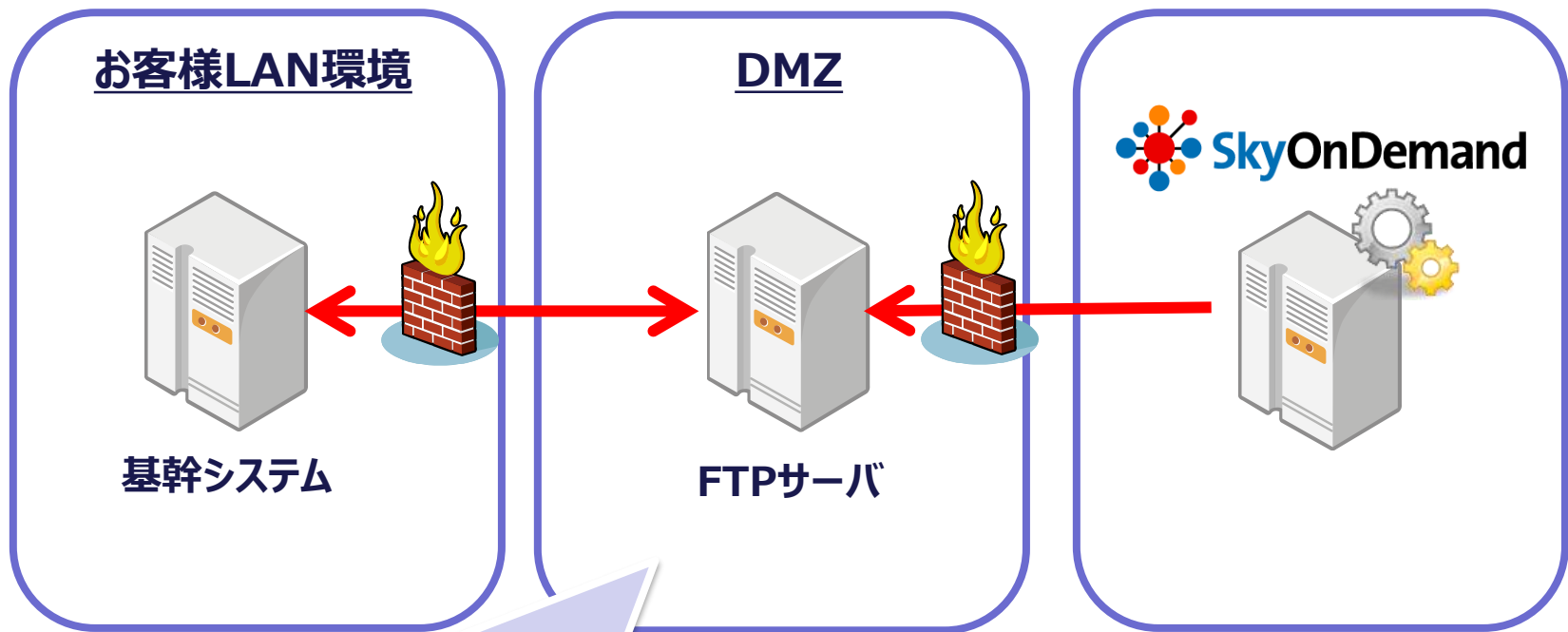
---

イントラネット内の基幹システムから、  
インターネット上のSkyOnDemandに  
どのようにファイルを渡すのだろうか？



# ファイル連携の実装パターン①

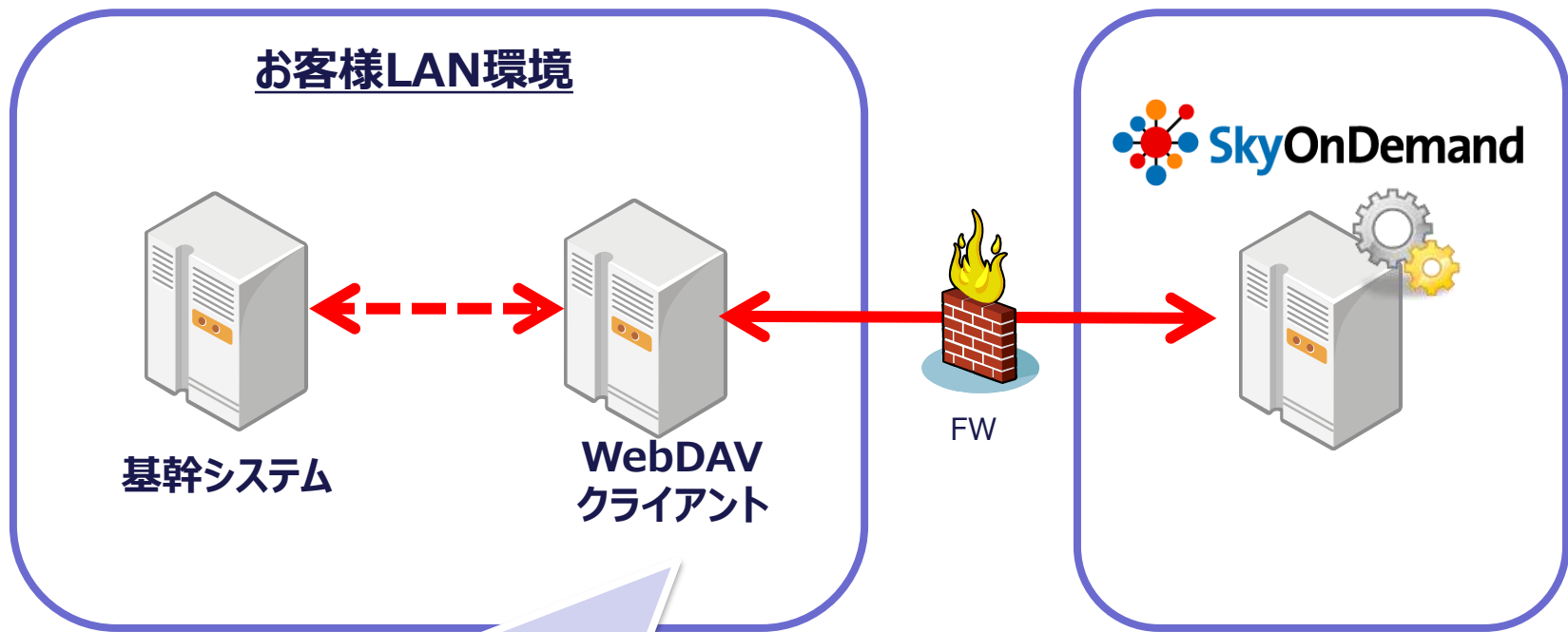
## 実装方法① FTPサーバを利用したファイル連携



お客様がお持ちのFTPサーバからファイルを取得

## ファイル連携の実装パターン②

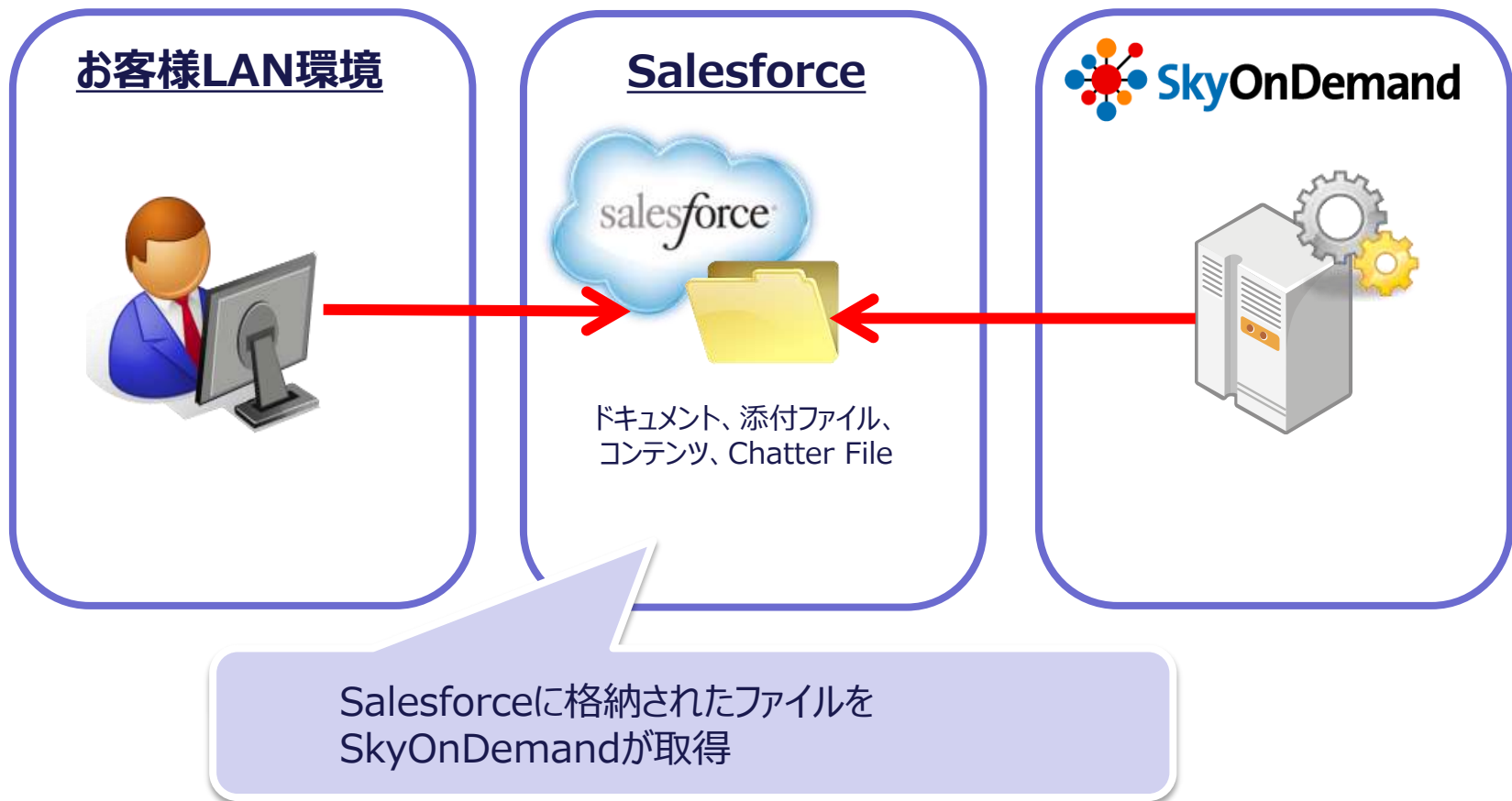
## 実装方法② WebDAVを利用したファイル連携



ファイルをWebDAVクライアントに出力するだけで、自動的にSkyOnDemandに転送

## ファイル連携の実装パターン③

## 実装方法③ Salesforceを利用したファイル連携





# 本日の連携シナリオ

---

# 本日のシナリオ

シナリオ： **基幹システムからCSV出力された取引先データを、Salesforceへファイル連携**

連携方式： 実装方法② WebDAVを利用したファイル連携

加工処理： 「住所」項目を連結

起動方法： ファイルトリガー



- 「連携」アイコンを利用したデータの加工処理
- ファイルトリガーを利用したトリガー自動実行

# POINT① データの加工処理

## 入力元のCSV

### 取引先データ

取引先No,取引先名,電話番号,郵便番号,都道府県,市区郡,**町名番地,ビル名**  
 1,株式会社テラスカイ,03-5255-3411,103-0028,東京都,中央区,**八重洲1-6-6,八重洲センタービル7階**  
 2,クラウド株式会社,03-5423-3322,111-0002,東京都,台東区,**清川178-9,台東ビル23階**  
 3,株式会社スカイ,03-3909-1358,142-0053,東京都,品川区,**中延2-9-1,グランドタワー234**



## 出力先のSalesforce



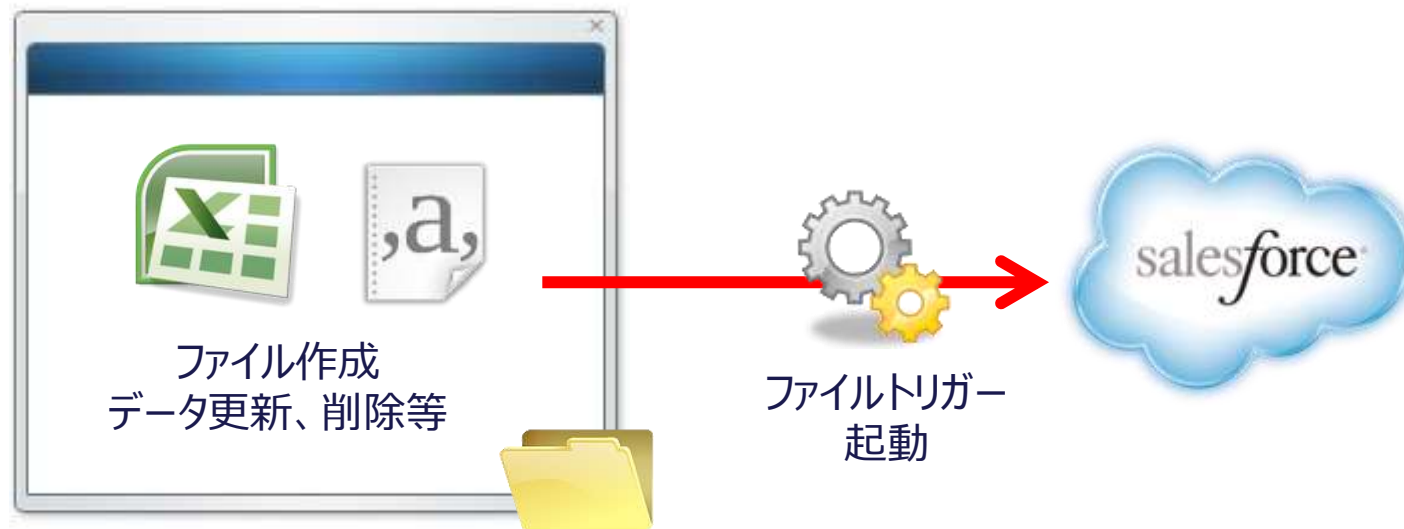
「町名番地」と「ビル名」を連結して、一つの項目に登録  
 「町名番地」と「ビル名」の間には、半角スペースを追加

国(請求先)	<input type="text"/>
郵便番号(請求先)	<input type="text" value="103-0028"/>
都道府県(請求先)	<input type="text" value="東京都"/>
市区郡(請求先)	<input type="text" value="中央区"/>
町名・番地(請求先)	<input type="text" value="八重洲1-6-6 八重洲センタービル7階"/>

**町名番地\_ビル名**  
 (Ex) 八重洲1-6-6,八重洲センタービル7階  
 ↓  
 八重洲1-6-6 八重洲センタービル7階  
 半角スペース!

### ファイルトリガーとは？

監視対象ファイルの新規作成・更新・削除などのイベント発生時に連携の処理を実行します。



**作ってみよう！**

連携処理の作成は以下のステップで行います。



## 1. グローバルリソースの設定

- 連携対象システムの接続設定を行います。

## 2. 連携処理の作成

- 連携スクリプトの作成を行います。

## 3. サービス登録・トリガーの設定

- 作成した連携処理をサービス登録し、実行タイミングを設定します。

# 1. グローバルリソースの設定

# 作成手順 1.グローバルリソースの設定(1/2)

- ①接続先のSalesforceをグローバルリソースに設定します。  
WebStudioのメニューバーより、**コントロールパネル**>**グローバルリソース**の設定を選択





# 作成手順 1.グローバルリソースの設定(2/2)

②新しいグローバルリソースの追加>リソースの種類を選択:「クラウド」> SalesforceAPIを選択し、  
**接続先SalesforceのID/PWを登録**

新しいグローバルリソースの追加

接続の設定  
 リソースへの接続に必要な情報を入力します。

接続名 Salesforce接続設定 API 29.0

種類 デフォルト

接続タイプ Salesforce(Salesforce接続設定 API 29.0)

接続リトライ設定 接続リトライ詳細設定 セキュリティ

必須設定 オプション設定 PROXY設定 SOAPヘッダー設定

ユーザID skyondemand@gmail.co.jp

パスワード .....

ログイン先 login.salesforce.com

ログインURL https://login.salesforce.com/ser

タイムアウト (秒) 600

Connectionタイムアウト (秒) 5

送信時データ圧縮 圧縮する

OAuthを使用して接続する

接続テスト

接続アシスト

接続に成功しました。

ID(10)  
 undefined (00D1000000acDrE41)  
 ユーザID)  
 Kanako Suzuki (00S10000002vxAAY)

SOAPエンドポイントアドレス  
 https://ap.salesforce.com/services/Soap/  
 u/29.0/00D1000000acDrE41  
 セッションID  
 00D1000000acDrE41  
 AQQACQWtuSm4B3uS3rHEBk7LDCTaDusy7DC0\_DmFL  
 zXOLA2UwVKQFjE06zQ9i4BhUvVFTDx8XY30g5T  
 pKtRbAn3fg

APIは29.0まで対応しています!  
 (2014年6月現在)

グローバルリソース  
 の設定完了!

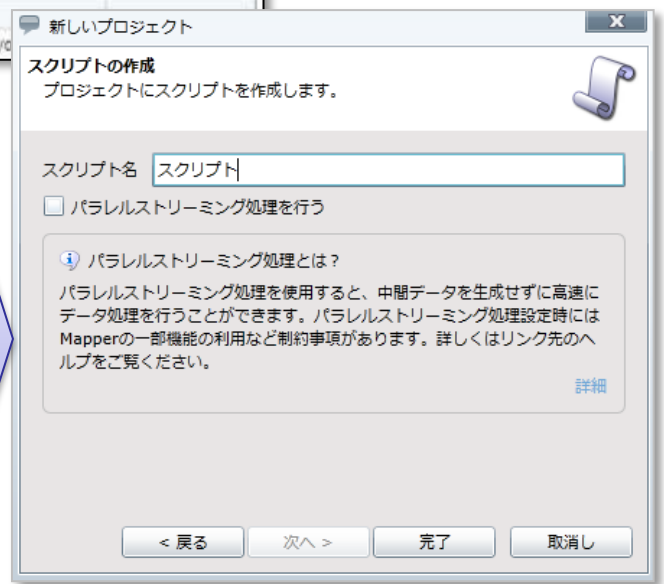
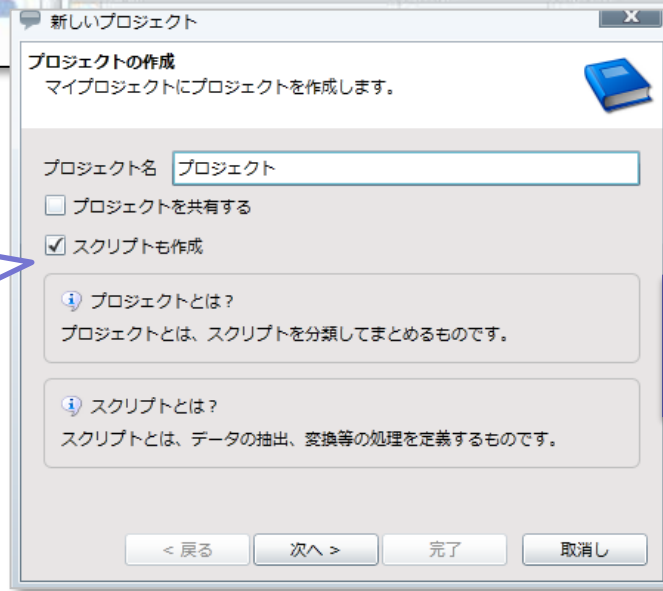
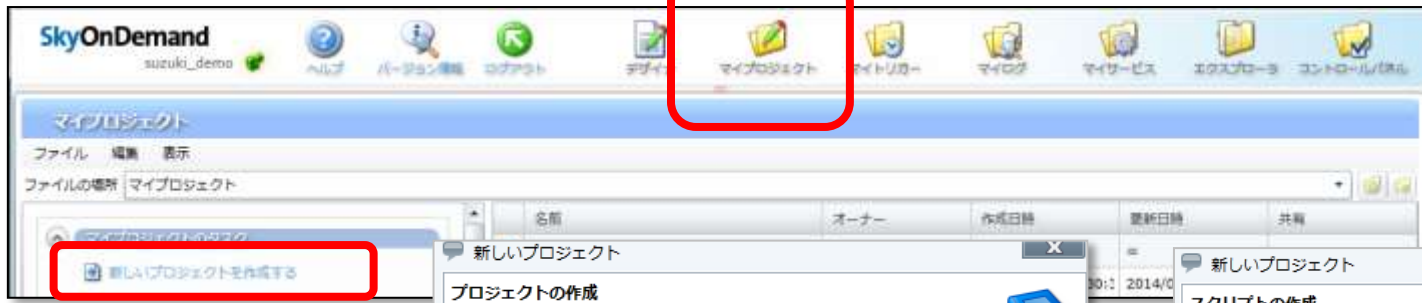
## 2. 連携処理の作成

# 作成手順 2.連携処理の作成(1/14)

## ①プロジェクトとスクリプトの作成

連携処理のスクリプトを作成します。※スクリプトとはデータ連携処理の流れを記述したものです。このスクリプトを関連した単位でまとめて管理をするものがプロジェクトとなります。

Webスタジオのメニューバーより、**マイプロジェクト>新しいプロジェクトを作成する>プロジェクトの作成>スクリプトの作成**



😊 管理のしやすいプロジェクト名をつけてください。

# 作成手順 2.連携処理の作成(2/14)

## ①プロジェクトとスクリプトの作成

Webスタジオが開きます。この中でスクリプトを作成します。

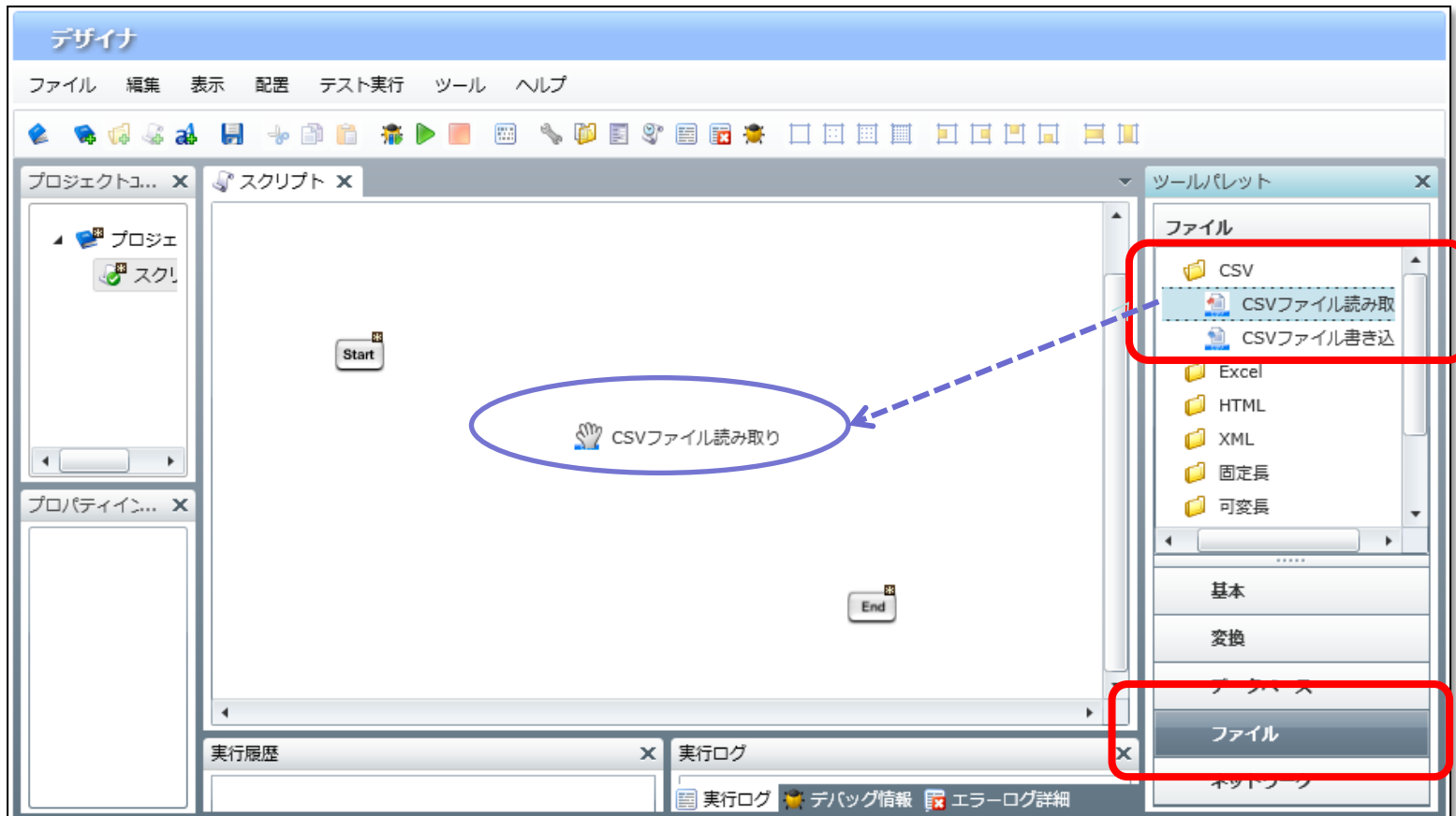


オペレーションアイコン

# 作成手順 2.連携処理の作成(3/14)

## ②取引先データ「Account.csv」の読み取り

ツールパレット>ファイル> CSVの読み取りアイコンをキャンバスにドラッグ&ドロップします。

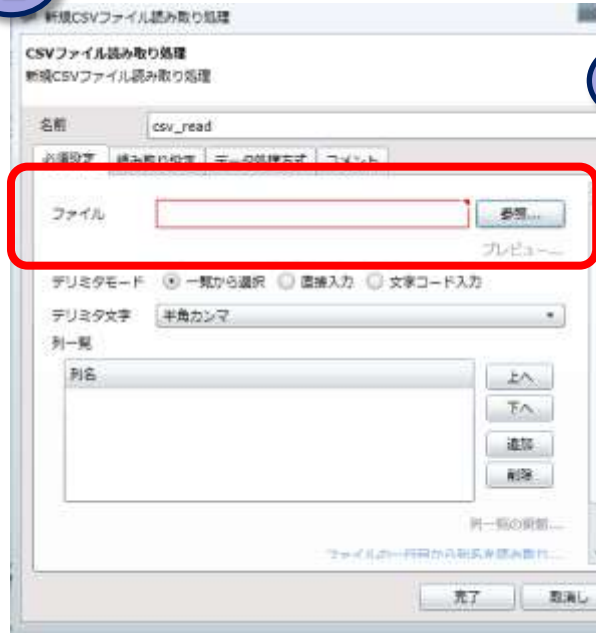


# 作成手順 2.連携処理の作成(4/14)

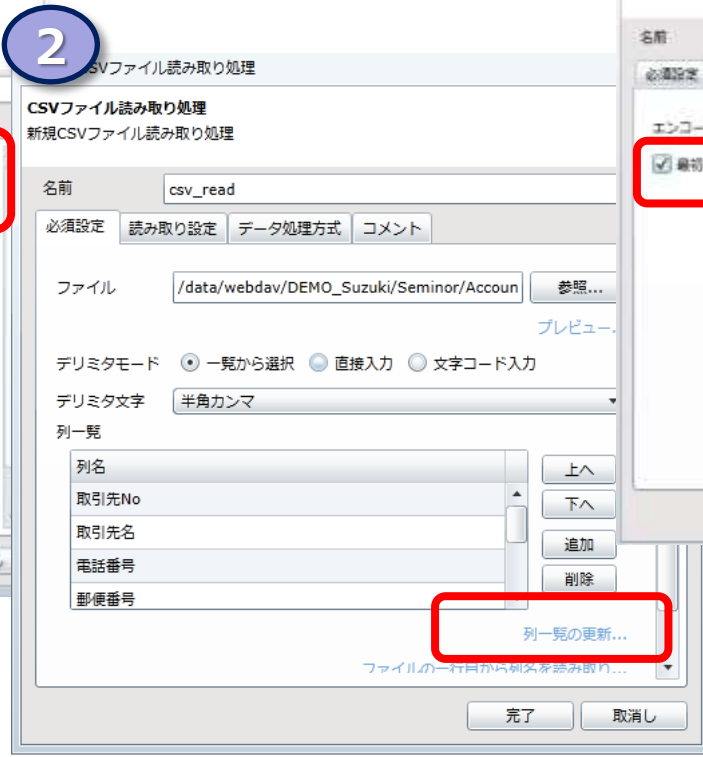
## ②取引先データ「Account.csv」の読み取り

CSVファイルの読み取り設定ウィンドウが表示されます。  
「参照..」ボタンより、該当のファイルを選択

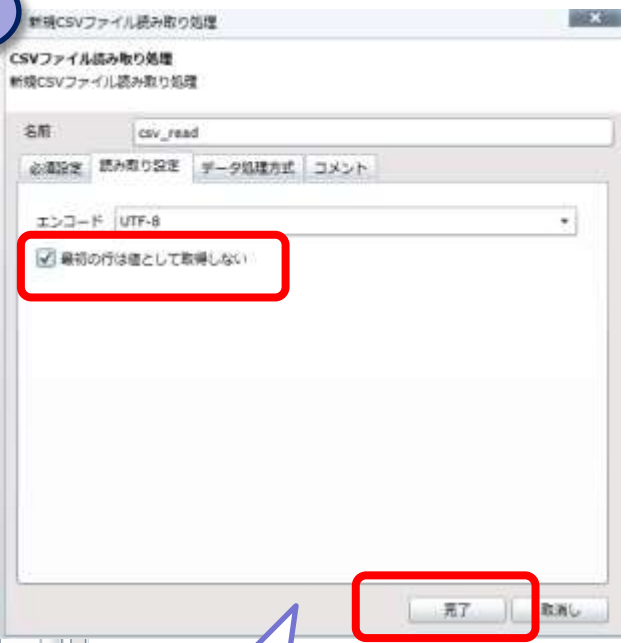
1



2



3

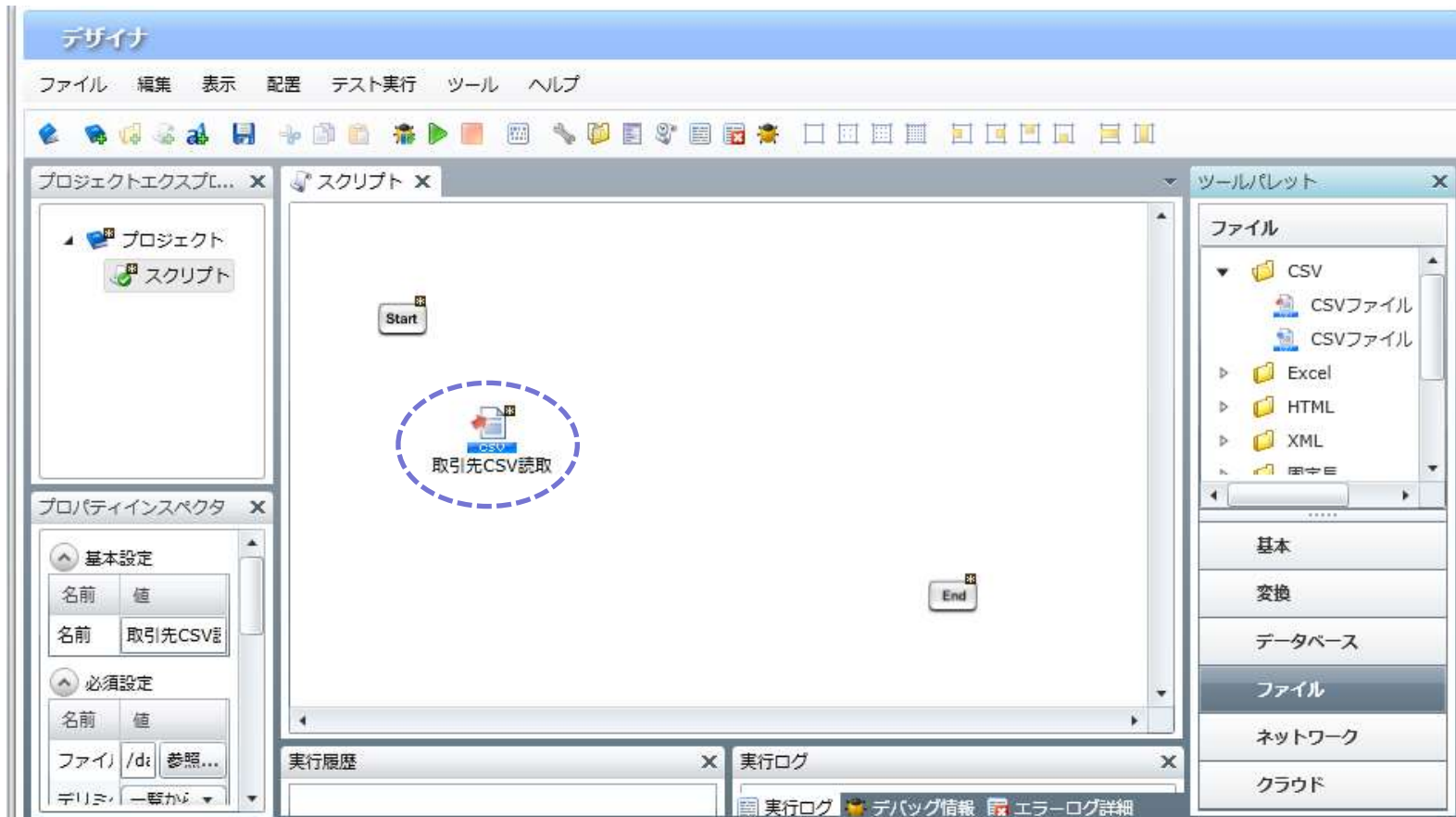


😊  
ファイルにヘッダーが含まれる場合は、ここにチェックを入れると、一行目はデータとして連携されません。

# 作成手順 2.連携処理の作成(5/14)

## ②取引先データ「Account.csv」の読み取り

CSVファイルの読み取り設定は完了です。

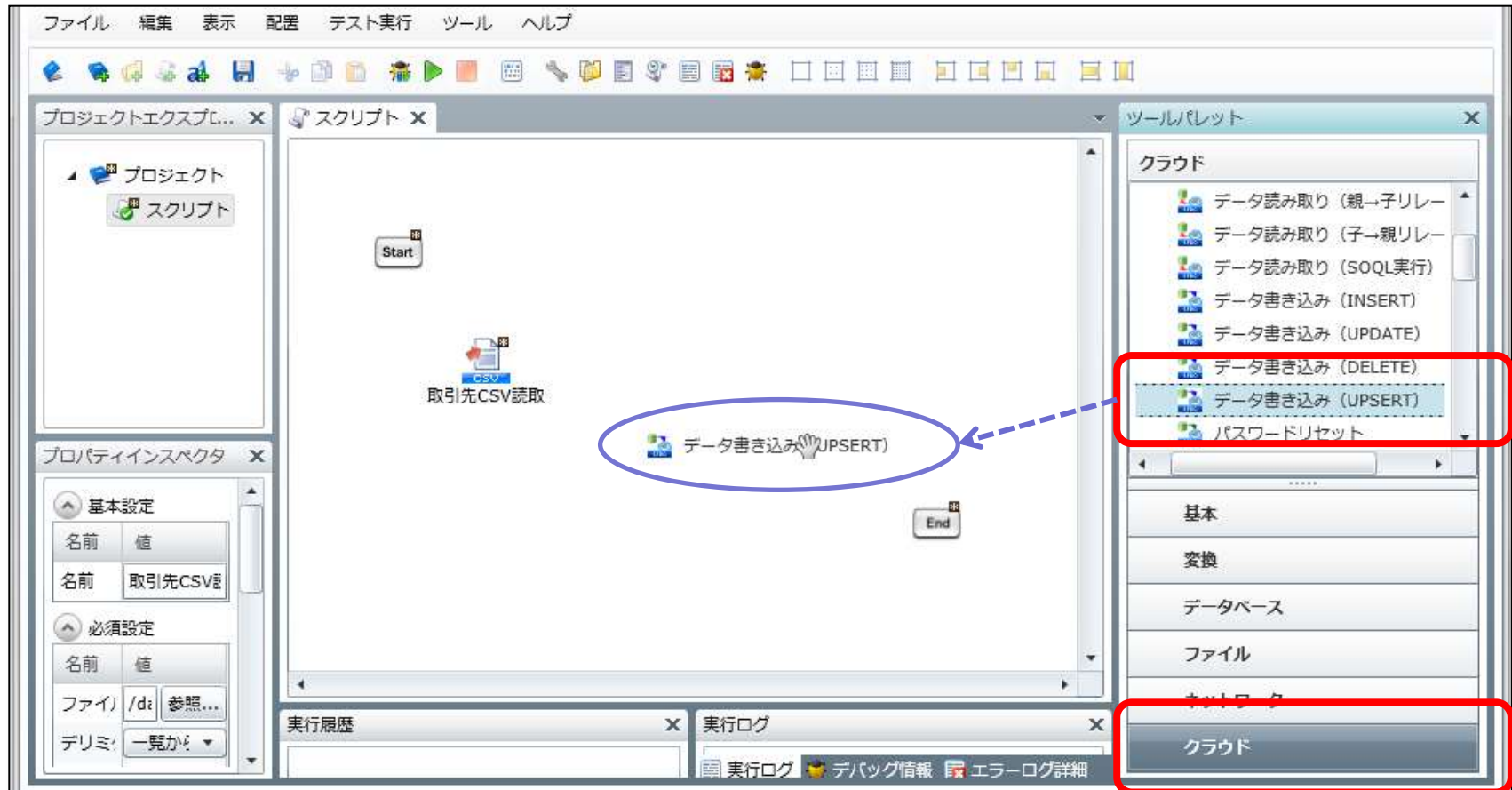


## 作成手順 2.連携処理の作成(6/14)

### ③Salesforceへの書き込み

読み取った「Account.csv」をSalesforceに書き込みます。

ツールパレット>クラウド> Salesforceディレクトリの「データ書き込み(UPSERT)」をドラッグ&ドロップ





# 作成手順 2.連携処理の作成(7/14)

## ③Salesforceへの書き込み

新規データ書き込み(UPSERT)処理設定ウィザードが表示されます。

- ・グローバルリソースで設定をした、接続先Salesforceを選択> 接続先オブジェクト「Account(取引先)」を選択
- ・スキーマの作成で、接続対象の項目を選択します。

新規データ書き込み (UPSERT) 処理

データ書き込み (UPSERT) 処理  
新規データ書き込み (UPSERT) 処理

名前: put\_upsert

入力データ: (入力データなし)

必須設定 | オプション設定 | データ処理方式 | コメント

接続先: Salesforce接続設定 API 29.0\_Onlinedemo

テーブル名: Account (取引先)

スキーマ定義

外部キー	ラベル	API	型

リレーションシップ項目定義

元項目API名	リレーションシ	オブジェクトAPI	リレーション用オ

完了 取消し

### ▼スキーマ作成ウィザード

スキーマの作成

テーブル情報  
テーブル名: Account (取引先)  
追加(INSERT): 可能    更新(UPDATE): 可能    削除(DELETE): 可能    レプリケーション: 可能

スキーマの作成

未選択

ラベル	API	型	外部ID	追加可能	更新可能	Null許可
国(請求先)	BillingCountry	string	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
緯度(請求先)	BillingLatitude	double	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
経度(請求先)	BillingLongitude	double	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
状況をクリーンアップ	CleanStatus	picklist	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
作成者 ID	CreatedById	reference	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

連携対象項目

選択済みへ ↑ 未選択へ ↓

ラベル	API	型	外部ID	追加可能	更新可能	Null許可
取引先No	Account_number_...	string	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
取引先名	Name	string	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
取引先 電話	Phone	phone	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
郵便番号(請求先)	BillingPostalCode	string	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
都道府県(請求先)	BillingState	string	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
市区町(請求先)	BillingCity	string	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

# 作成手順 2.連携処理の作成(8/14)

## ③Salesforceへの書き込み

取引先Noを外部キーに設定します。 スキーマ定義> 外部キーの「取引先No」を「ture」に変更

新規データ書き込み (UPSERT) 処理

データ書き込み (UPSERT) 処理  
新規データ書き込み (UPSERT) 処理

名前

入力データ

必須設定 オプション設定 データ処理方式 コメント

接続先

テーブル名

スキーマ定義

外部キー	ラベル	API	型
<input type="text" value="true"/>	取引先No	Account_number	string
<input type="text" value="false"/>	取引先名	Name	string
<input type="text" value="false"/>	取引先 電話	Phone	phone
<input type="text" value="false"/>	郵便番号(請求先)	BillingPostalCode	string

スキーマの作成...

リレーションシップ項目定義

元項目API名	リレーションシ	オブジェクトAPI	リレーション用カ

完了 取消し



### Salesforce書き込みについて

**【INSERT】**

データを新規に作成します。

**【UPDATE】**

既存のデータを更新します。データ更新時のキー項目に、SalesforceID以外を指定することができます。

**【DELETE】**

既存データを削除します。データ削除時のキー項目は、SalesforceID以外を指定することが可能です。

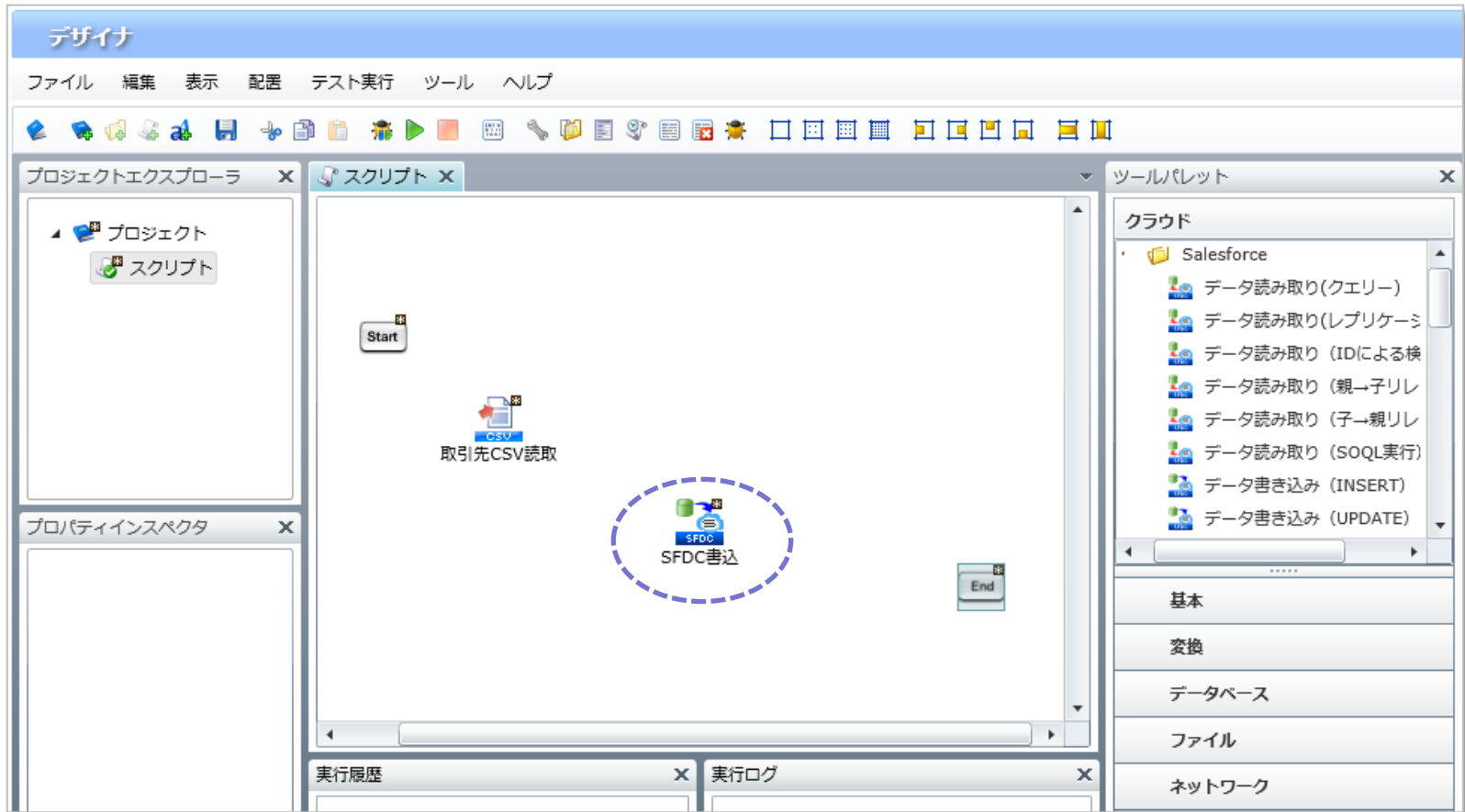
**【UPSERT】**

データを新規に作成、また既存データを更新します。UPSERT時にはあらかじめSalesforceに外部IDを定義しておく必要があります。データが存在しない場合にはデータを追加、データが存在する場合にはデータ更新を行います。

# 作成手順 2.連携処理の作成(9/14)

## ③Salesforceへの書き込み

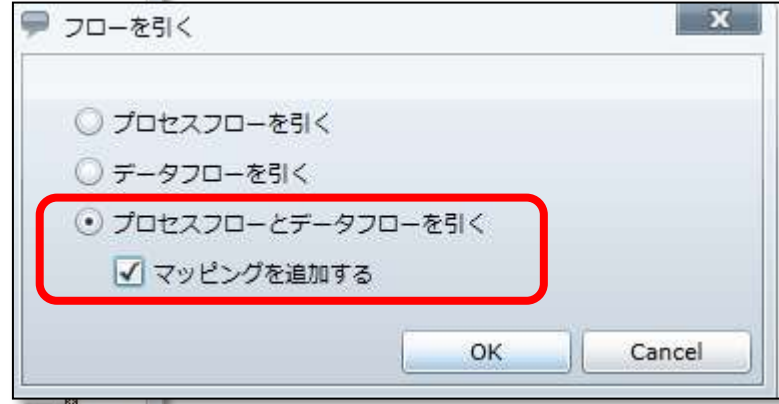
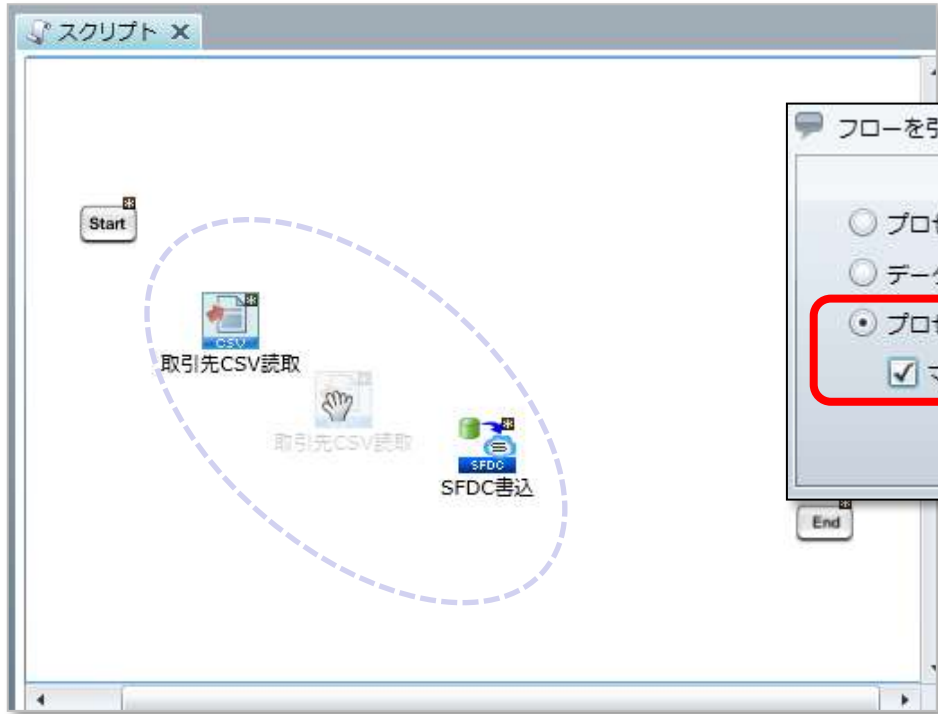
これで、Salesforceへの書き込み処理は完了です。



# 作成手順 2.連携処理の作成(10/14)

## ③ マッピングの設定

「CSV読取り」アイコンから「SFDC書込み」アイコンへ、ドラッグ＆ドロップすると、フローを引く画面が表示されます。今回は、「プロセスフローとデータフローを引く」を選択し、「マッピングを追加する」にチェックを入れます。



Mapperアイコンが表示されます。

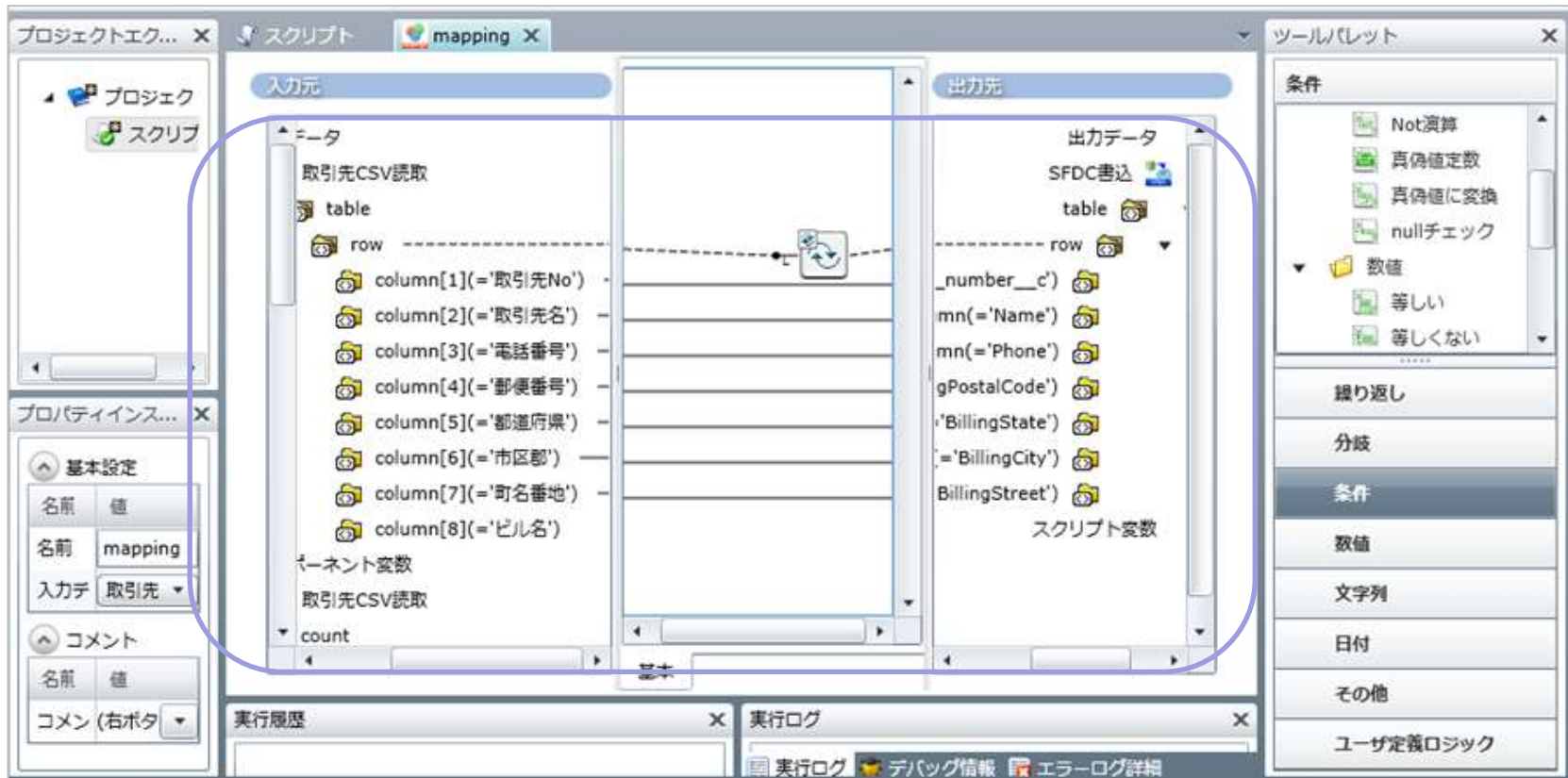


Mapperとはデータ変換を行う際に使用する機能です。演算、文字の加工、条件抽出、コード変換、マージなどが可能です。

# 作成手順 2.連携処理の作成(11/14)

## ③マッピングの設定

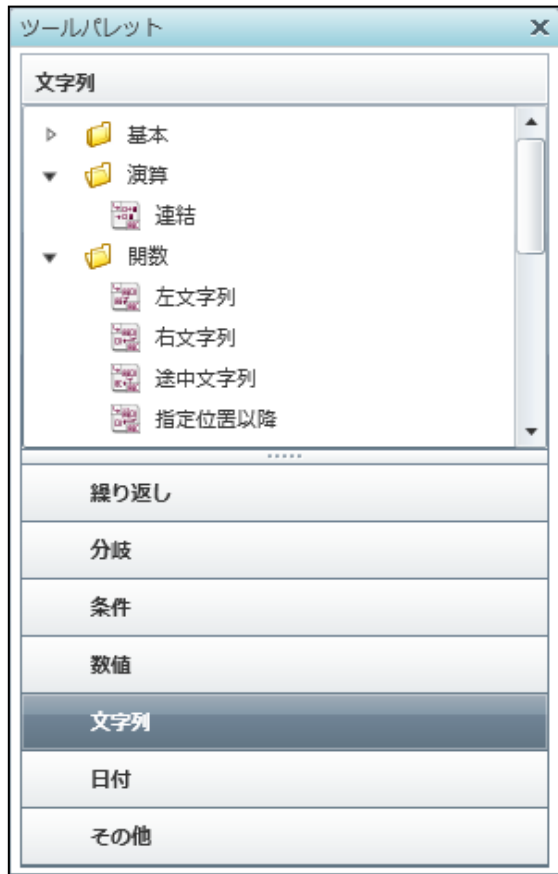
MapperアイコンをダブルクリックしてMapperエディタを開きます。  
 入力データの項目から、出力データの項目へ、標準で上から順番に線が引かれています。  
 線を引き直す場合は、「DELETE」ボタンもしくは右クリックで線の削除が可能です。



## 作成手順 2.連携処理の作成(12/14)

### ③マッピングの設定

加工処理を加えます。今回は、CSVの「町名番地」と「ビル名」を連結しますので、右側のツールパレットより、加工に必要なアイコンを選択します。



今回利用するのは、以下の2つのアイコンです。



**連結** : 複数の入力文字列を連結して返します。

**文字列 > 演算 > 連結**



**単一行文字列定数** : 単一行の文字列定数を返します。

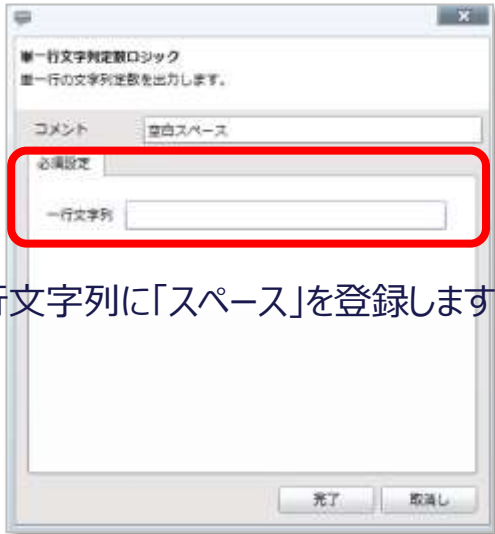
**文字列 > 基本 > 単一行文字列定数**

- ・「連結」アイコンを利用して、「町名番地」と「ビル名」を1項目に連結します。
- ・「単一行文字列定数」を利用して、「町名番地」と「ビル名」の間に「空白」を挿入します。

# 作成手順 2.連携処理の作成(13/14)

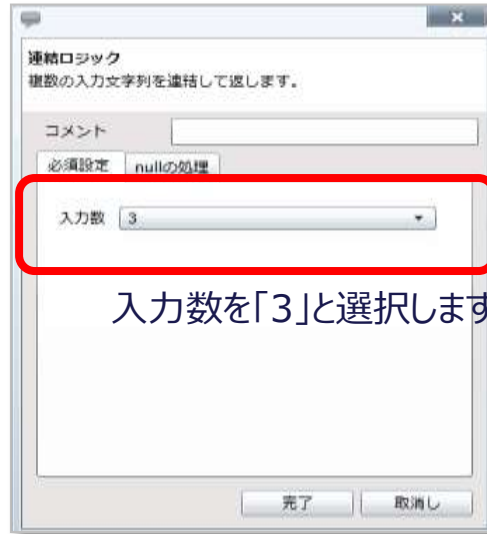
## ③マッピングの設定

単一行文字列定数



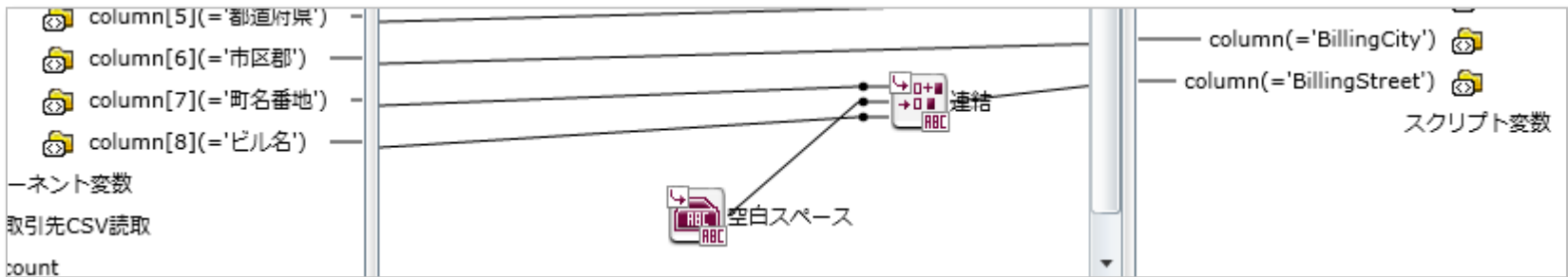
一行文字列に「スペース」を登録します。

連結



入力数を「3」と選択します。

### 【マッピング完成イメージ】

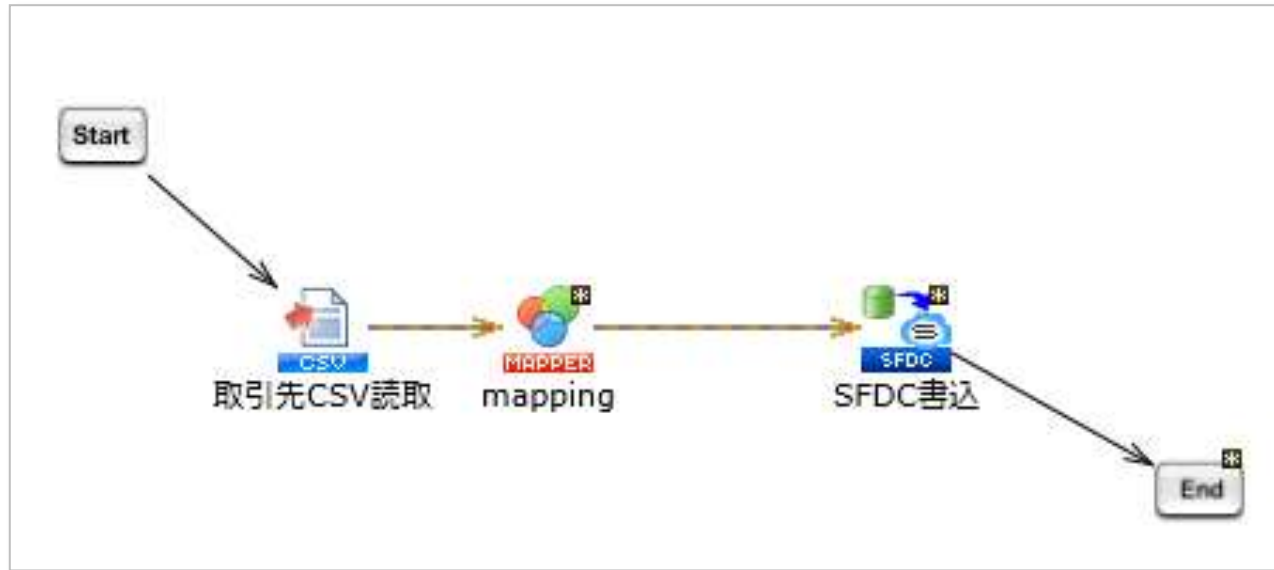


完了後は、「mapping」タブの×を押下してMapperエディタを閉じます。

## 作成手順 2.連携処理の作成(14/14)

### ④仕上げ

「Start」→「取引先CSV読取り」→「Mapping」→「SFDC書込」→「End」の順でプロセスフローを引きます。これでスクリプトは完成です。



処理が正しく完成しているか、スタジオ左上のツールバーよりデバック実行してみましょう。

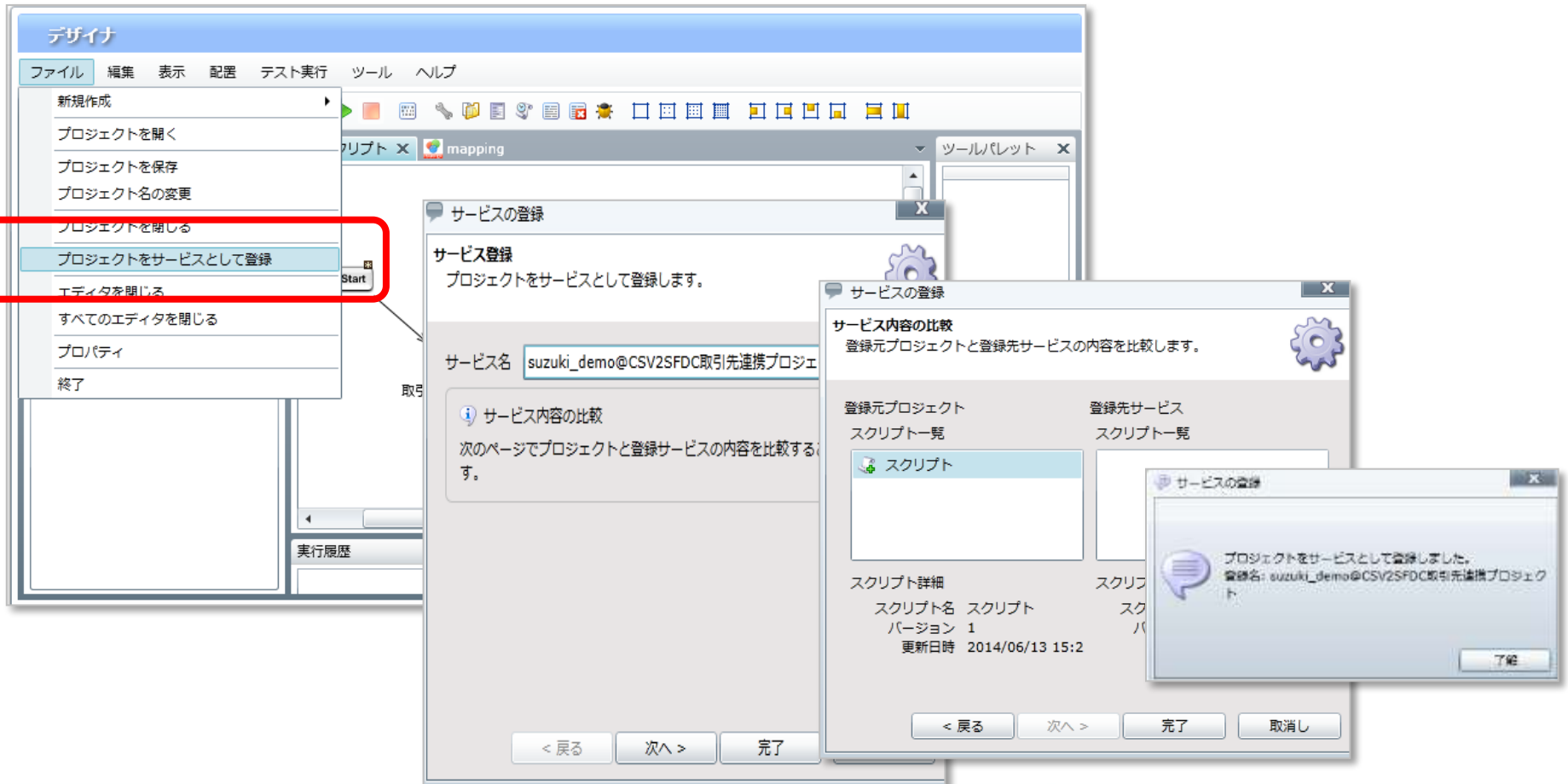


### 3. サービスの登録・トリガー設定

# 作成手順 3.サービス登録・トリガーの設定

## ④サービスの登録

作成したスクリプトを自動で起動する設定を行うには、サービス登録とトリガー設定が必要になります。  
 サービス登録は、**ファイル>プロジェクトをサービスとして登録**を選択します。

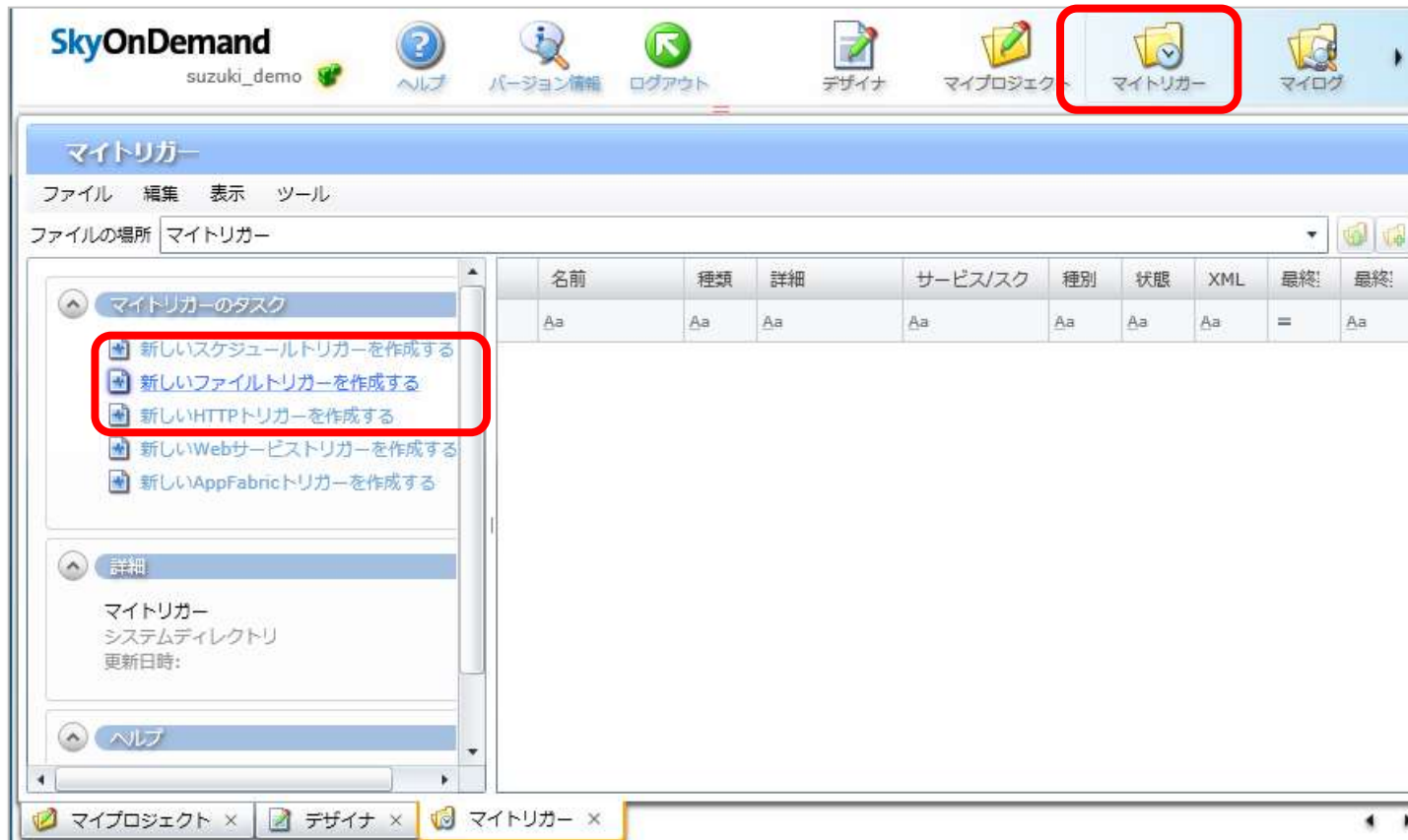


# 作成手順 3.サービス登録・トリガーの設定

## ④トリガーの設定

登録したサービスを「ファイルトリガー」に設定します。

WebStudioのメニューバーより、**マイトリガー**→**新しいファイルトリガーを作成する** を選択します。



# 作成手順 3.サービス登録・トリガーの設定

## ④トリガーの設定

対象ファイルや監視タイミングを設定する画面がウィザード形式で表示されます。  
次の通り、設定を行います。

ファイルトリガーの設定  
監視ファイルの状態の変化によりスクリプトを実行します。

トリガー名: ファイルトリガー【取引先連携】

監視イベント: ファイルのタイムスタンプ更新時

既に監視ファイルが存在していた場合実行する

監視ファイル: /data/webdav/DEMO\_Suzuki/S/ 参照...

SkyOnDemandファイルシステム  サーバローカルファイ

ディレクトリを監視対象とする

監視間隔(秒): 10

終了時オプション

監視ファイルは削除しない

< 戻る   次へ >   完了   取消し



実行内容の設定  
トリガー発火時に実行される処理内容を設定します。

トリガー所有者: suzuki\_demo

実行ユーザ名: suzuki\_demo

パスワード: ●●●●●●

サービス: suzuki\_demo@CSV2SFDC取引先連携プロジェ

スクリプト: スクリプト

スクリプト引数

変数名	型	値

< 戻る   次へ >   完了   取消し

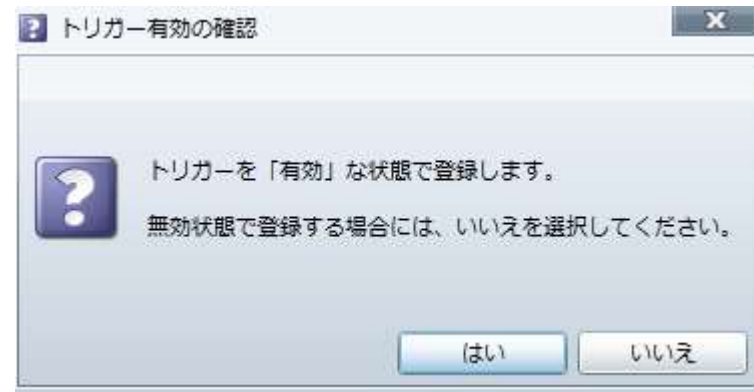
トリガー名：新規トリガー名を設定  
監視イベント：ファイルのタイムスタンプ更新時  
監視ファイル：SkyOnDemandのファイルシステムから対象のファイルを選択  
監視間隔：10秒

先ほど登録したサービスをスクリプトを選択

# 作成手順 3.サービス登録・トリガーの設定

## ④トリガーの設定

最後にトリガーを「有効」な状態で登録をしたら、トリガーの設定は完了です。



以上でスクリプトの設定方法は完了です。

## 本日のポイント

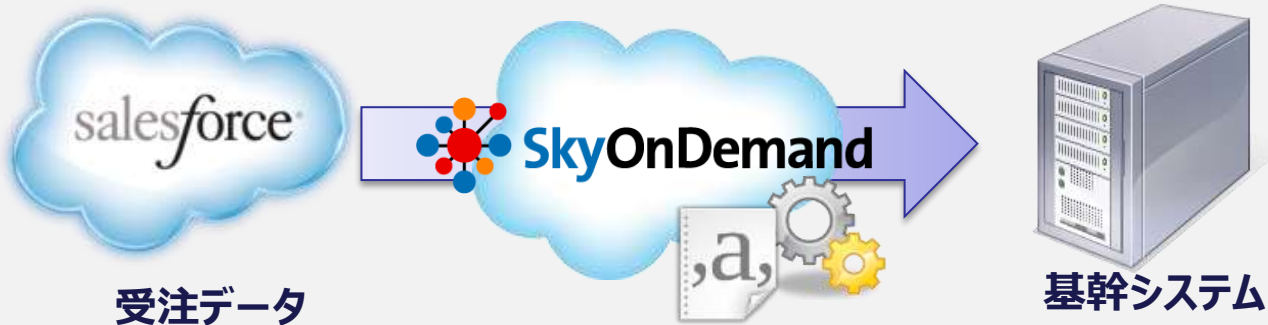
- ① ファイル連携方式の理解
- ② 加工処理「連結」の使い方の理解
- ③ ファイルトリガーの設定方法の理解

～第3回：基本編～

日時：7月15日（火） 16:00-16:25

<http://www.terrasky.co.jp/event/2014/0715-002.php>

さわってみよう②  
～受注確定データをSalesforceからCSV出力～



**ご清聴ありがとうございました。**

**アンケートへのご協力お願いいたします。**

